



JIC インフォメーション

第 167 号 2011 年 07 月 10 日

年 4 回 1・4・7・10 月の 10 日発行

1 部 500 円

発行所: JIC 国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

<http://www.jic-web.co.jp>

東京オフィス: 〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-14-8 YPC ビル 7F

TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪オフィス: 〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-1-22 フェアステージ大手前ビル 5F

TEL: 06-6944-2315 jicosaka@jic-web.co.jp

♪ 次の旅行はロシアに決まり!!

ロシア・旧ソ連 国際交流誌

В Россию - БЕЗ ВАРИАНТОВ!!

旅行・留学のお問い合わせはいつでもお気軽にJICへどうぞ!

<http://www.jic-web.co.jp> twitterでJICをフォローしよう!
facebook もやってるよ!

— サнкт・ペテルブルグの夏 —

東日本大震災 負けるなニッポン!

「フェイスブックで広がる支援の輪

～在日ロシア人グループ「ストップ・パニック」の活動」

モロゾフ・デニス 2-3P

「ウラジオストク歴史散歩地図」 3P

「エストニアもエール」岩田 賢治 4P

JIC 情報 5P

<連載>「エクメネの最果てへ」—サハ共和国 冬の旅—

岡本 健裕 6-9P

追悼・吉田勝次さん「非凡な構想力と行動力」

伏田 昌義 10-13P

モスクワ通信 14P

ペンパル情報 15P

JIC 情報 16P

JIC では、Jクラブ(JIC 友の会)会員を募集しています。
年 4 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

東日本大震災 負けるなニッポン!

フェイスブックで広がる支援の輪

～在日ロシア人グループ「ストップ・パニック」の活動

Stop Panic Stop Panic モロゾフ・デニス

03 月 15 日。ダイヤの乱れで超満員の電車を長時間乗り継ぎ、やっとの思いで辿り着いた事務所で俺を待っていたのは訪日旅行キャンセルの嵐。平常心を装いながらメール処理に没頭しようとするが、頭は福島第一原発事故で一杯。水素爆発、放射線被爆、諸外国大使館の東京からの撤退、コンビニから消えていく水、カップ麺、……。震災時、海外ニュースでよく見かける暴動や略奪はなかったものの、「静かなるパニック」は東京を確かに呑み込んでいた。しかし、俺の周りにいた人たちは冷静さを保ち、懸命に仕事をこなし、自分よりも被災者を思いやる。この素晴らしい環境は「大丈夫、すべての問題はきっと解決される。慌てふためく必要はない」とささやいているようであった。そして数日も経たないうちに電車が普通に動き始め、水や日常生活用品がコンビニの棚に舞い戻った。「静かなるパニック」はほんの一瞬で立ち去った。

「ストップ・パニック」グループの誕生

こんな経験は自分だけでなく、日本に住んでいる多くのロシア人も同様にしていた。そしてこの経験を生かして、情報交換の場・助け合いの場として誕生したのが、フェイスブックをベースにした「ストップ・パニック」グループだ。

震災後、ロシア人に限らず、多くの在日外国人が真っ先に受けたのは、本国の肉親や友達からの強力なプレッシャーだった。ロシアに限っていうと、マスコミの報道は尋常なものではなかった。大衆向けの新聞や雑誌はあることないことを書きたて、キー局ですら事実無根の報道を連発していた。「放射線の雲で東京はゴースタウンに化す」、「東京で計画的避難が開始」など、目や耳を疑うような「ホットな」ニュースが飛び交っていた。仙台市内の地震発生時の映像に「東京は崩壊寸前」のコメントを乗せた「情報」が連日流されると、実態を知らない肉親や友たちはすかさず電話やメール攻撃を始める。「今すぐ逃げろ」、「帰ってこない」と勘当だ。あるロシア人女性の場合、娘を帰国させるために重い病を装うといった「奥の手」を使った母親までいた。

いくら「大丈夫だ」と言っても「じゃ～、その根拠を示せ。政府はどうせウソの発表しかしないんだ」と跳ね返ってくる。長年に渡って自国の政府に騙されてきたロシア人は「世

界中の政府はどこもウソツキだ」と信じ込んでしまっているから、なんともやるせない。

正確な情報を求めて 1000 名以上が集まる

フェイスブックの「ストップ・パニック」グループに集まったのは、外からの圧力をかわしきれず、正確な情報を求めていたロシア人やその他の外国人だった。すぐに帰国すべきなのか、原発事故は今どうなっているのか、放射線は一体どういうものなのか、空気、食材、水は安全なのか。みんな



グループのイベントでオークションに出された「パニック・グッズ」の一部。売上げがすべて寄付。

なで寄せ集めた情報を日本政府の公式発表や東京電力と原子力安全保安院の記者会見の内容、さらに IAEA のような国際機関の見解に照らし合わせながら、一つ一つの疑問に答えていく。当初、グループの役割はそのようなものだった。正確な情報に基づき、

あらゆる懸念事項をできるだけ分かりやすく整理した「ドキュメント」と呼ばれるフェイスブック内のノートを 100 件以上作成し、それをグループの参加者に公開した。すると数十名の参加者はあつという間に 1,000 名以上に膨らんだ。

数は力なり。

数多くのロシア人はグループの情報を武器に肉親からの「防衛」に努めた。フェイスブックで発信した日本情報を英国 BBC のロシア語放送が紹介してくれるなど、ロシア国内への正しい情報発信にも役立った。そして情報戦が収束に向かうと、次は「被災地の支援と募金活動」という大きなキーワードが浮かび上がった。

被災地でロシア料理の炊き出し、ミニコンサートも計画

「ストップ・パニック」が主催した数回のチャリティー・イベントに沢山の人が集まり、その参加費すべては日本赤十字に振り込まれた。福島第一原発で、過酷な環境で、寝食を忘れ、必死に頑張っている東京電力の復旧作業員宛てに 263 名の署名を集め、激励の手紙も出した。これをきっかけに NHK 首都圏ネットワークがグループの活動取材し、放映してくれた。

フェイスブック内にある別の支援グループ「Support for victims of Japan Tsunami」の呼びかけに応じ、人道支援が十分に行き渡ってない石巻と南三陸の避難所あての食



支援物資を整理している
グループ・メンバー

料品や日常生活品の調達に協力し、ロシア大使館まで動かし、2 トン近くの物資を共同で 06 月 04 日に届けた。

そして 06 月末には、この

二つのグループの参加者は再び被災地を訪れ、ロシア料理の炊き出しとミニ・コンサートを行う計画を立てている。

外国人の枠を超え、現時点では日本人の参加者も増えている。グループ内の共通言語はロシア語がもちろんだが、日本語も英語も問題ない。

グループの活動に興味のある方は、フェイスブックに登録の上、「STOP PANIC」と検索してみてください。あなたが出した支援のアイディア、呼びかけが 1,000 人の参加者を動かすかもしれない！(JIC スタッフ)

ウラジオストク歴史散歩地図

面白い地図ができた。「浦潮旧日本人街散策マップ」。ウラジオストクの日本領事館とアルセーニエフ歴史博物館が、日本ウラジオストク協会(中本伸幸会長)や藤本和貴夫氏(大阪日露協会理事長)らの協力を得て作成したウラジオストクの歴史散歩地図だ。

ウラジオストク市街中心部に点在する旧日本人街の跡や日本人ゆかりの建物などを地図上に記したもので、裏面にはそれぞれ解説と写真がついている。旧日本総領事館、浦潮本願寺跡、旧日本人小学校、旧杉浦商店など、十数か所の名前が見える。

ウラジオストクは、1860 年に清国からこの地域一帯を獲得したロシア帝国が、極東開発の拠点として、また太平洋への出口として建設した港町だ。1904 年には中国のハルピンを経由してモスクワまでつながるシベリア鉄道が開通し、ウラジオストクはその始発駅となった。シベリア鉄道は、日露戦争(1904～1905 年)のために帝政ロシアが国力をあげて建設した世界一長い鉄道路線だが、開通後はアジアとヨーロッパを結ぶ最短交通路となった。もう 100 年も昔の話になるが、『東京発パリ行き』の国際列車のチケットが、日本で売られていた時代があったのだ(1912 年から運行開始)。東京を出た列車は、敦賀港(福井県)でウラジオス

トク航路と接続し、ウラジオストクからシベリア鉄道でモスクワに到着、さらに西へと走りパリまで約 2 週間で行くことができた。

ヨーロッパへの窓口とも言えるウラジオストクには、早くから多くの日本人が出かけており、明治 9 年(1876 年)に日本政府貿易事務所が開設されている。最盛期(1920 年頃)には、市の中心部に日本人経営の商店が建ち並び、約 6000 人の日本人がこの町で暮らしていたという。

ロシア革命(1917 年)後の「シベリア出兵」で、ウラジオストクには、日本、イギリス、アメリカなどの干涉軍が長期間駐留した。その間、ウラジオストクには、革命政権から逃れた多くのロシア人が流れ込み、また干涉戦争に乗じて一旗揚げようと目論む日本人が多数乗り込んだ。しかし、シベリア干涉戦争は失敗し、最後まで残った日本軍も 1922 年 10 月に撤収、ウラジオストクは赤軍の支配下に入った。

結局、ウラジオストクの日本人街が最も栄えた時期は、日本軍のシベリア出兵(1918～22 年)、干涉戦争中ということになるのだが、苦労してこの地でビジネスや生活の基盤を作りあげてきた日本人たちは、戦争中は日本軍に協力させられ、その失敗後はソビエト政権から圧迫されて徐々に締め出されていくことになる。ウラジオストクから最後の日本人が引き上げたのは 1927 年のことと言われる。以来、1991 年のソ連崩壊まで、ウラジオストクは外国人立ち入り禁止の閉鎖都市として、日本との関係を長らく断ち切られてきた。

ソ連崩壊以後は、閉鎖都市の指定が解除され、新潟ーウラジオストク間に定期航空路が開かれ(2010 年からは成田ーウラジオストク航路に変更)、今や多くの日本人が観光で訪れる町になっている。天然の良港である金角湾を抱くように町が広がる。坂道の多い市街には帝政時代からの古い建物が並び、「路面電車」が道を行きかう。2012 年 11 月には APEC 首脳会議が開催される予定で、現在、会場となるルースキー島への架橋工事が急ピッチで進められている。

かつて日本人が暮らしていた痕跡を訪ねて、地図を片手にウラジオストクの町を歩いてみると、また違った表情が見えてくるかもしれない。(浦潮旧日本人街散策マップ)は、在ウラジオストク日本領事館またはアルセーニエフ歴史博物館で、無料配布しています。

*

*

*

「浦潮旧日本人街散策マップ」の編集に協力した日本ウラジオストク協会は、2007 年 2 月に設立された民間団体で、日本各地とウラジオストク市を結ぶ文化・芸術・経済交流を行うことを目的に、美術展やコンサートなど、さまざまな活動を行なっている。

連絡先;156-0052 世田谷区経堂 5-8-5 中本方

TEL/FAX; 03-3425-6183 URL; www.geocities.jp/biennale2007/

エストニアもエール

岩田賢治

JIC インフォメーション読者の方からの投稿です!

Tere! 皆さん、こんにちは。私は 2 月 14 日～3 月 16 日の間、エストニアの首都タリンに滞在していました。そして 3 月 11 日の東日本大震災、その時のタリンでの出来事を報告します。

その日私はホテルにいました。日本からメールで「日本が地震と津波で大変なことになっている」と連絡がきました。静かなエストニアの日常に気持ちが浸かっていた私は、その時は半信半疑でしたが、テレビをつけると BBC では津波の映像が生々しく、車、家、飛行機まで瞬時に津波に飲み込まれていく映像に唖然となり大変なショックでした。と同時に

になにかの衝動に駆られ、すぐに部屋を飛び出し文房具店で大きな画用紙を買い、それに「今日、日本で大地震と大津波の震災がおきました、日本を助けて下さい!!」というように英語で書き、旧市街近くの広場に一人で立ちました。気温 0℃雪も降り、



声を出すにも冷たさで口の周りがこわばっていました。しかし、そんな寒さの痛みなんて吹き飛ばす人々の温かさを次々と感じたのです。

一人目は初老のご婦人。わざわざ雪が積もっている私の後方から歩いてきてプラカードを読むと、胸に手をあて目をつむり、そして財布から大量のユーロコインを取りだし私に差し出したのです。私は義援金を預かる考えと準備をせずに急いでその広場へ行っていたので見知らぬアジア人に大量のコインを渡すことに正直びっくりしました。ですがここは日本風にしっかりと頭を下げ、日本語で感謝を伝えました。そして、次に若いお母さんが私に「何を助けて欲しいの? お金? メッセージ?」と尋ね 私は「はい、両方ください!」と答えました。エストニアもそうです、自分の考え・要望等ははっきり相手に伝えないといけないことを再認識しました。そのお母さんは「分かったわ、両方あげる。」そして、「こういうふうにするわ」と、お菓子の箱



を募金箱に、プラカードを分かりやすく、と教えてくれました。それから様々な沢山の人達が日本への励ましメッセージ&お金を私に託していきました。小学生位の小さな女の子二人組がヒソヒソ話し合った後それぞれの小さな財布の中身を全部出して募金箱に入れてくれました。これら 1・2・5 セントでも間違いなくこの子達の大事なお小遣いということが分かるので とても胸が熱くなりました。それから小さな赤ちゃんを乗せてベビーカーを押すお母さんが通り過ぎ、しかしそこで立ち止まり荷物をさぐるとすぐに私の方へ真っ直ぐやってきました。そして黙って 20 ユーロ紙幣をさし出します。物価の違い、人々の 1 ユーロでも慎重な買い物、基本的に現金を持ち歩かない事等を考えるととても胸が熱く、中には私が装備不足だった為、暖かい手袋やマフラーを買って差し入れていただいたり、しかも私のその日の服装に合うように色まで合わせてくれてるんですよ。そんなエストニアの人々の優しさを 3 時間、とても沢山のメッセージと義援金とともに預かったのです。帰りの飛行機の窓からエストニアが見えた時、それまでの緊張感がほぐれると同時に人々の顔が浮かび私は涙が本当に止まりませんでした。ずーっとエストニアの方向を見続け...「みんな本当にありがとうございます。みんなの想い間違いなく被災地に届けます」。無事帰国した私はメッセージの内容(エストニア語・ロシア語・英語)を友達の協力のもと訳し、原本のコピーとその訳文を岩手・宮城・福島各県庁に送り、義援金は、お世話になったエストニアを通じたかったので、事前に許可をもらい駐日エストニア共和国大使館に送りました。私は帰ってきて、とりあえず自分に出来ることはやったと信じています。あとはできれば、これをエストニアの人々に間違いなく想いを届けたという返事を返すことができたら私はとても幸せです。

以上 エストニアでの報告になります。皆さん、長々とお付き合いいただきありがとうございました。

(久留米市在住)

第31回モスクワ国際 平和マラソン2011

クレムリン前の赤の広場からスタートし
モスクワ川沿いに42.195kmを駆け抜けるフルマラソン
毎年、ロシア全土各都市、世界40カ国以上から
ランナーが参加

日程:9月9日(金)~13日(火) **ランナー必見!!!**
旅行代金: 成田発 ¥198,000

【ツアーポイント】

- ① ロシア全土各都市、世界 40 カ国以上からランナーが参加するモスクワ国際平和マラソンにエントリー
- ② フルマラソンと 10 キロの 2 コースがあります
- ③ 日本語ガイドがご到着から出発までご案内します
- ④ 弊社モスクワオフィスが緊急時対応で安心です

旅行代金(2 名 1 室利用の場合の 1 名様費用)

燃油サーチャージ アエロフロート利用の場合(目安 ¥38,000 6/1 以降)、成田空港利用料¥2,540、ロシア査証代¥9,250(実費、代行料)が別途必要となります。

締切:2011年7月29日(金) **締切間近です**



JIC夏の短期ロシア語研修旅行

ロシア人と仲良くなろう!

費用: 成田発 ¥248,000 サクトペテルブルグロシア語研修
関空発 ¥268,000 & ホームステイ

期間: 2011年9月3日(土)~18日(日) 全16日間

(サクトペテルブルグでのホームステイ 1 名 1 室利用の場合の 1 名様費用)

* 大韓航空利用

* 燃油サーチャージ目安 往復 32,000 円

(2011 年 4 月 20 日現在)

* 上記料金に加え、燃油サーチャージ、成田空港税 2,040 円、成田空港旅客サービス料 500 円または関西空港税 2,650 円、海外空港税 4,020 円、ビザ費用として 9,250 円(実費、代行料)が別途必要になります。

注: 燃油サーチャージ、海外空港税は予告なく新設・変更・廃止されることがあります。その場合は、変更額に応じ、所定の費用を徴収または返金いたします。

締切: 2011年7月29日(金) **締切間近です**

◎詳しい旅行条件等を記載した書面をお渡しいたしますので、事前にご確認のうえ、お申込み下さい。

旅行企画実施: ジェアアイシー旅行センター(株)

研修協力: JIC 国際親善交流センター

留学・研修各種パンフレットは JIC へご請求ください。

留学・旅行相談はお気軽に!

2011 年 JIC 夏の短期ロシア語グループ研修は、デルジャヴィン・インスティテュートで学ぶ 2 週間のロシア語レッスン。レッスン後には、1 週間に 1 回、ロシア文化に触れる課外授業を用意し、さらに週末には、見どころいっぱいのサクトペテルブルグ市内観光をするなど、サクトペテルブルグの魅力がたくさん詰まっています。滞在はロシア人家庭でのホームステイです。先生だけでなく色々な人が話すロシア語を聞いて、ロシア語を聞く力を養いましょう!

1 週間授業を受けた後の週末には、日本語を勉強しているロシア人と一緒に時間を過ごす交流プログラムをご用意しました! レッスンで学んだロシア語をさっそく使って、ロシア人の友達を作りましょう!



2011年4月より開講 JIC東京ロシア語講座 (前期)

途中入講可能!

お気軽に
お問い合わせ下さい!!

- <入門> 月曜 19:00-20:30 ゼロからのスタート! 1 年間かけてロシア語の基礎文法を勉強します。
<初級> 火曜 19:00-20:30 ロシア語のやさしい読み物を読みながら、会話にも慣れていきます。
<中級> 水曜 19:00-20:30 身近な出来事などを題材に、ロシア語の表現力を高めていきます。
<文学講読> 木曜 19:00-20:30 小説を中心に授業をすすめます。学習歴 3 年程度以上のロシア語力の方対象。
<時事会話> 金曜 19:00-20:30 新聞・ニュース・物語などを題材に総合的なロシア語力を高めることが目標です。
<使える会話①> 土曜 10:45-12:15 ビデオを使って、より高いレベルのロシア語力を目指します。上級の方対象。
<使える会話②> 土曜 12:30-14:00 ビデオを使って、よく使うロシア語を学びます。初級~中級の方対象。

受講料: 全17回 51,000円
定員: 1クラス4~8名程度
会場: 国際親善交流センター 東京オフィス (東京・四谷)

<お問い合わせ>
ロシア語講座東京 TEL: 03-3355-7287

2011年4月より開講 JIC大阪ロシア語講座 (前期)

途中入講可能!

- <入門> 火曜 19:00-20:30 ゼロからのスタート! アルファベットや挨拶をはじめ、ロシア語の基本を勉強します。
<初級> 木曜 18:30-20:00 ロシア語の文法をひととおり学びながら、会話も少しずつスタート。
<中級> 金曜 19:00-20:30 会話のバリエーションを増やしましょう。総合的なロシア語力アップが目標です。
<上級> 月曜 19:00-20:30 新聞を読んだりディスカッションをしたりします。会話力を磨きましょう。

受講料: 全15回 35,000円
定員: 1クラス5~10名程度
会場: 国際親善交流センター 大阪オフィス (大阪・天満橋)

<お問い合わせ>
ロシア語講座大阪 TEL: 06-6944-2315

※人数が定員に達しない場合は開講されないクラスもありますので、予めご了承ください!!

エクメネの最果てへ

—サハ共和国 冬の旅—

【第9回】岡本 健裕

前回に続き、ヴェルホヤンスクの 2 日目の話です。私たちが学校を辞してから、玄関を見ているとあとからあとから帰宅する子どもたちが出てきます。みんな見事な毛皮の外套とブーツを身にまとって、丸っこくて、すっごくかわいい。愛らしい！それにしても、私は特殊防寒服にフェルトのヴァーレンキという急ごしらえの出で立ち（詳しくは連載第 3 回参照）で、ファッション性まったくナシだというのに、この子たちのオシャレなことといったら！子どもはぐんぐん大きくなるものですが、ちゃんとそれぞれの体格に合った毛皮外套をみんな持っているんですね。かっこいいなあ。

結構たくさん子どもたちが下校していく姿を見たような気になりましたが、よく見ると今、午前中で帰宅しているのは低学年の児童だけ。高学年の生徒は午後まだまだ授業があるのか、校内に残っているみたいです。やっぱり、このヴェルホヤンスクに生徒数 300 人とはすごいものだと、改めて思っちゃいますね。世界の寒極の町には、一目で全容を把握できない規模の、未成年コミュニティーがあるんです。

昼ごはんときになりました。さあ、学校のすぐ隣のホテルに帰って、食事にしましょう。

■2009 年 1 月 14 日の昼食

1. ボルシチのサワークリーム添え (борщ со сметаной)
2. ガルプツィー (голубцы)
3. ブーラチキとヴァレーニエ (булочки с варением)
4. キャベツのサラダ (салат капустный)
5. 魚 (チール) の衣揚げ (рыба чир в кляре)
6. 黒パン (хлеб)
7. 紅茶とミルク

<メニューの解説>

1. ボルシチは言うまでもなく有名なスープですね。ウクライナ発祥のロシア料理の定番メニューですが、サハ共和国にも浸透しているようです。具材はごくふつうにキャベツ中心。サワークリームを添えるところもスタンダードなロシア式です。2. ガルプツィーは、言うなればロシア式ロールキャベツです。特徴は中身が米と肉であること、それから、フライパンで焼いて作ることです。3. ブーラチキはロシア風



の小さいパンです(日本語では菓子パン、と訳されることも多いです)。ヴァレーニエは前回の朝食紹介でも登場しました。ロシア式のさらっとしたジャムです。4. サラダが出てくるところもロシア的。ロシア料理では、正餐である昼食にはスープやサラダをきっちり出します。ところで、何となくお気づきでしょうが、今日はきつと、諸般(厨房)の事情により、キャベツを消費する日なんでしょう(笑)。それにつけても、真冬のヴェルホヤンスクで、葉もの野菜を口にできる幸せよ！5. 魚料理の食材、チールはたびたび紹介した大型淡水魚ですね。やっと、サハ共和国ならではの料理が出てきました。いやあ、しかし、このチールって魚は、生でよし(ストロガニナ、連載第 7 回参照)、煮てよし(ウハー、同)、焼いて(揚げて)よしのすばらしい食材。この衣揚げおいしいなー！ええ、正直に言って見せびらかしていますので、試してみたい方はぜひサハ共和国へ。

食事のあとは、アナトリーさんの運転で、ドライブです。ちょっと川向こうまで行きましょう。ここで地元の男性が 1 人、案内人として合流し、私達は全部で 5 人となりました。

サルダナさん：現地旅行会社のスタッフ。ヤクート人女性。(優秀)

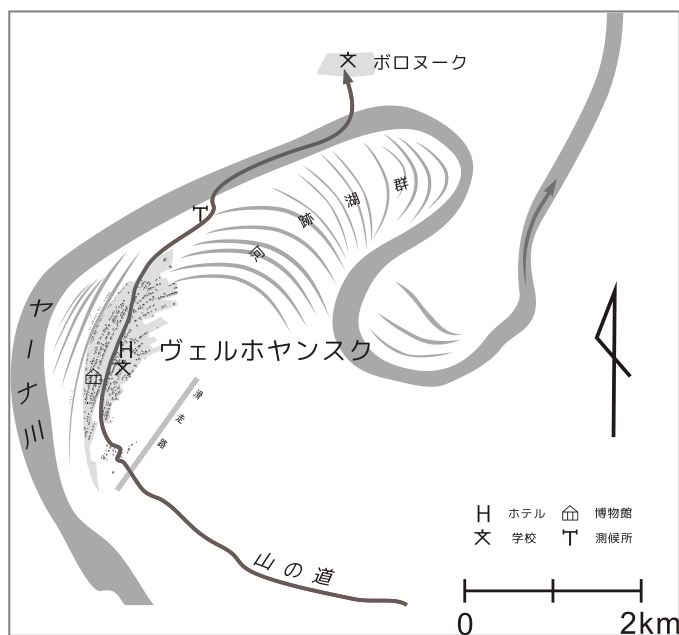
アナトリーさん：現地ドライバー。ヤクート人男性。(熟練)

ニコライさん：現地住人。ヤクート人男性。(達人)
←NEW！

オオノさん：新聞記者。日本人男性。(敏腕)

オカモト：筆者。日本人男性。(若造)

ヴェルホヤンスクの町並みは、ヤーナ川に沿って、ほぼ南北方向に細長く広がっています。私たちの泊まっている



ホテル「寒極」はそのちょうど真ん中あたりにあります。私たちがこの町にやって来たときは、「山の道」を通って、南側からアプローチしましたね。(と言っても、覚えている読者の方は多くないでしょうが、とにかくそうだったんです。)これからまず、我ら未踏の市街の北半分へ行き、さらにその先、ヤーナ川が右に大きくカーブして立ちのぼるところを、渡って越えよう、というわけです。まあ、図を見てください。

市街地の北半分といっても、皆様大方ご察しの通りで、少し家並みが続いたらすぐに終わってしまうのですが、その一番外れに、重要施設があります。ヴェルホヤンスク測候所です。ここが、世界のあらゆる測候所の中で、最低の気温を公式に観測したところなのです。ところで、寒極と呼ばれるところには、ヴェルホヤンスクよりも(多分)有名な地名がありましたね。同じサハ共和国内のオイミヤコンです。ここではマイナス 71.2 度を観測したのですが、オイミヤコンには測候所はありません。まあ、測候所があるとなかろうと、観測方法や条件が統一されていようといまいと、



自然界にとっては全然関係ないことですけどね。自然科学的には、そういう質の違う情報が複数あるのです。

測候所の前には、記念碑があります。プレートに被った雪を払いのけると、気象観測開始 100 年記念、とあります。1869 年から始まったこの地での気象観測が、100 年目を迎えたのは 1969 年、この記念碑でさえ、既に設置から 40 年が経過しているのです。

とそのとき、辺りが急に輝きました。振り返ると、地表ぎりぎりにあかあかともえる太陽がいます。「君たちは運がいい。」とアナトリーさんが言いました。「今年最初の太陽だよ。」

そう、北緯 $67^{\circ} 32'$ 、東経 $133^{\circ} 23'$ にあるヴェルホヤンスクは、まぎれもなく北極圏の町。だから、期間は短いけれど、夏至前後には一日中太陽の沈まない白夜があり、冬至前後には太陽が全く出ない極夜があるのです。そして私たちは今日、たまたま極夜が明けたその日に居合わせたみたいです。以下、言うまでもないですが一応。北極



圏とは北緯 $66^{\circ} 33'$ 以北の地域を指します。なぜなら地球の地軸が公転面の法線に対し $23^{\circ} 27'$ 傾いているからです。

ついでなので、ちょっと計算してみましょう。ヴェルホヤンスクは、この日 2009 年 1 月 14 日にどのくらいの時間太陽を見られるのでしょうか。日本の国立天文台のウェブサイトには便利な暦計算室(*1)が公開されているので、それを使うことにします。他にも同様の計算のできるサービスは色々あるんですが、国立天文台の優れたところは、Google map 上からワンクリックで対象地点の座標の緯度経度を拾えることです。(なんでもっともらしく理由づけしましたが、要するに手計算が面倒だったってことです。)しかし、計算結果は一見、意外というか、日の出は 11:33、日没は 14:58 と、3 時間半近くも「昼間」があると出てきました。それどころか、この計算システムによると、極夜は 12 月 16 日から 12 月 27 日までの期間しかない、とまで算出してしまふのです。これでは極夜明けは 17 日も前です。全然、現実と合いませんね。でも、それも仕方ないのです。計算では、地球を完全な球体とみなしていますが、実際のヴェルホヤン

スクは周囲を丘陵が取り囲んでいます。だから、仮想の球体上でなら見られたはずの初期の日の出も、起伏の向こう側で相当数、不発に終わっていたわけです。

あそうか、今気づきました。さっきまで、ヴェルホヤンスクは夜明け前だったんですね。学校の下校風景を見ていたせいもあってか、周囲がオレンジ色の光線状態なのを、何となく夕方のように錯覚していました。でも、この太陽は昇ったばかりですぐに沈んでしまうんですよ。計算上は存在するはずの昼間の続きは、丘陵の向こう側へ行ってしまいます。ってことは、今はもう夕方と言っても間違いじゃないのか。じゃ、「さっきまでは朝だけど今は夕方」ってことで。いや、やっぱり「今は朝で、同時に夕方」の方がいいかも。どっちでもいいですか、そうですか。

測候所はいくつかの立派な木造の建物からなる施設です。そのなかの 1 つ、屋上に大きなテラスのついた 2 階建ての建物には、1885 年に -67.8°C を観測して 120 周年を記念するプレートが取り付けられていました。博物館で見た公式レターと同じ機会に取り付けられたものでしょう。中に人の気配がします。140 年前に始まり、124 年前には極限の記録も見届けた営みが、今日も静かに、そして確かに継続中なんだなあ。いろいろあったであろう 20 世紀をまるまる全部くぐり抜けて…。



<測候所の建物の 1 つ>

測候所はヤーナ川本流がすぐ近くに迫っています。アナトリーさんのウアズ(yaz)は、測候所を出発するとすぐ、こともなげに凍結した川の上を横切りました。さあ、ヤーナ川左岸へと、初上陸です！

川の向こうには、ヴェルホヤンスクよりも小さな別の集落、ボロヌーク(Боронук)です。…ということくらいは、地図を見て知っていましたが、実際に集落が遠目に見えだした途端、予想外の光景に驚いてしまいました。うわわ、こっちにも学校があって、子供たちが校庭で遊びまわっているじゃないか！「ここにも学校があるんですね。」「あるよ。中等以上はヴェルホヤンスクの学校へ行くけどね。」とアナトリーさん。いかに川を隔てているとはいえ、ですよ。まさか見えるくらいの距離に、もう 1 つ学校があるとは思っていませんでした。意外と感じたのは何か、それは次の 2 点に整理

できます。

1. 集落が若い！ボロヌーク集落単独で、学校を維持できるほどの児童数を抱えている。

2. 近くても学校を統合しない！義務教育は集落内で受けられる。

前者はともかく、後者は現代日本では考えられない贅沢さですね。これが日本だったらどうするか。川に立派な橋を架けるんです。日本ではこの半世紀ほど、ぜんぶの集落に学校を置くのは贅沢



<-67.8°C観測 120 周年記念プレート>

だけ、まともな道路をどの集落にも接続するのは贅沢じゃなくて不可欠なこと、という思想を根底に敷いて社会を構築してきました。サハ共和国では逆の考え方なんでしょうね。というかそうするしかなかったのでしょうか。これはどちらのやり方が優れているわけでもない、ただ、それぞれの国土で、技術的、コスト的な最適解を探った結果、必然にこのような相違に至ったものだろうと思います。

ところで、日本にも、わずかながらありますよ。ボロヌークの学校みたいなところが。私が訪れた中でも突出して特殊だったのは、鹿児島県トカラ列島の宝島小中学校の小宝島分校、と聞いてどこのことかすぐ分かる人はなかなかの通人です。日本社会の中にあることがもはや奇跡のようなすごい場所ですが、そこを詳しく書いている場合ではないので省きます。とにかくそれは、大海原にばらばらと点在する島々の中にある分校で、唯一外界と結ぶ船便は、海が荒れると 1 ヶ月来ないことだってある、だからこの学校は統合できないし、なくせないんです。

そう、海に隔絶されたとき、日本の集落はサハ共和国のそれと、どことなく似てきます。広大なサハの土地は、全部陸続きではあるけれども、陸地の常識で理解するより、大洋のごとき存在と考えた方が、島国に住む我々には分かりやすい場面がたくさんあるのです。そういえば、連載の第 4 回でヤクト語話者が「絶海の孤島のように」散らばっている、と書きました。実はあれ、それなりに思うところあった表現だったのですよ。

さて、海ならば真水の確保が問題となるごとく、冬のサハ共和国でも、液体の淡水を手に入れるには、工夫が必要です。そこでボロヌーク集落の出した答えの一つを、ニ



＜ボロヌークの水汲み場を案内するニコライさん＞

コライさんが示してくれました。集落のはずれの地面に、何やら分厚い板が敷いてあります。そこをめくると…うっすら湯気が立って、マンホール大の丸い水面が現れました。この水は、こんなふうには凍らないそうです。見たところしかし、この水は旧河道の湿地のたまり

水のように、湧水ではなさそうです。実際、飲用にはあまり上等でない様子。

だから飲み水には、ちょっと手間をかけます。どうするかと言うと、ヤーナ川の氷をブロック状に切り出したものを融かして使うのです。そういえば、ヴェルホヤンスクでも、街角のあちこちに氷のブロックが積みあがっているのを見ました。生命維持に必須の水を入手するために、燃料を焚きつけなければならぬのですから、極限の地で省エネ生活はできません。日本の孤島でも、海水淡水化装置を常時稼働させているところがたくさんあります。都会人が当たり前と思っていることにも、いちいちコストがかかるのです。

では、次回、ニコライさんの案内で、サハの大地にこぎ出して、豊かな恵みをみせていただきましょう。＜つづく＞

*1 国立天文台天文情報センター暦計算室

<http://www.nao.ac.jp/koyomi/>

※掲載写真は全て北海道新聞社大能記者による撮影

ペルミより日本語教師募集のお知らせ



【募集条件】

学校名 ペルミ「ギムナジヤ No.2」 学校
期間 2011 年 9 月 1 日から 3 ヶ月。
 (2012 年 1 月 15 日からさらに 3 カ月延長可能)
募集 日本人で授業で支障のない程度にロシア語を話せること。
 5-9 年生および大人の初級・中級日本語クラスを受け持つ能力があること。
授業数 週 30 時間 (9 クラス/5-7 名 x 3 時間)
使用教材 「ひろさんの楽しい日本語 1」(学生用)
 「みんなの日本語 1」(大人用)
条件 住居提供(ホームステイまたは家具付き 1 部屋アパート)
 平日 2 食付(朝・昼学校にて)
 月額 1,000 ドル支給
 エコノミークラス航空券(東京—モスクワ—ペルミ往復分)
 医療保険
 教材費負担
 ビザサポート
 ロシア語の授業(週 3 時間)

【学校詳細】

Россия 614051, г.Пермь, ул.Старцева, 1a
 МОУ «Гимназия №2»
 Директор – Суханова Людмила Андреевна
 Тел.+7-342-266-2896
 Руководитель курсов – Суханов Алексей
 Геннадьевич
 Мобильный тел. +7-919-499-5007
<http://center-kaizen.ru/>
www.himnasy2.perm.ru



JIC のホームページからお気軽にお問い合わせください

<http://www.jic-web.co.jp/study/stay/event.html#pee>

ギムナジウムでは、お昼は子供向け、夜間は大人向けのコースが開かれています。大人も子供も日本の伝統文化やポップカルチャーに興味を持っていて、学習意欲が高く、熱心です。授業は、日本や日本語についての質問が飛び交うような明るい雰囲気です。気さくな人が多いので、すぐに打ち解けることができました。また言語のクラスだけでなく、日本文化のクラスや習字のクラスもあります。

休みの日にはよく劇場やコンサートホールへオペラやバレエを見にいきました。ほかにも友人と美術館や博物館、映画館へ行きました。週末や祝日にはペルミの古い街並みを子供たちと一緒に散歩したり、大人の生徒さんと一緒に郊外に出かけたり、ロシア料理を学んだり、楽しく過ごすことができます。

ショッピングセンターやカフェなどもあるので、食事や生活必需品に困ることはありませんし、授業の日は、学校の食堂でごはんを食べられます。クバルチーラは新しく、高速インターネットや必要な家電もあり、とても快適です。

生徒のほとんどは日本へ行ったことがありませんが、日本への関心が高いです。日々の生活や授業を通して、生の日本を伝える、とてもやりがいのある仕事です。

日本語教師
 稲本 真理子さんの
体験談



派遣期間:2011年2~4月の3カ月間

追悼・吉田勝次さん

非凡な構想力と行動力

伏田 昌義

JIC 国際親善交流センターの専務理事であり、ジェーアイシー旅行センター(株)の設立時の代表者であった吉田勝次さんが、昨年 2 月に逝去された。JIC の設立前後から約 10 年間、JIC の対ソ連(ロシア)交流を引っ張った吉田さんを偲び、思い出をしるします。

* * *

初めて吉田さんと会ったのがいつのことなのか、よく覚えていない。初めて電話で話した時のことはよく覚えている。1975 年、私が大学 4 回生の 5 月だった。学生の集まりで平和問題について講演をしてもらえないかと電話した。学生運動の「伝説の大先輩」だと聞いていたので、緊張しながら恐る恐る電話をかけた。「その日は不可能です。私は○日から○日まで海外出張の予定で、日本にはいません。」きわめて簡潔、明瞭。とりつく島もなく「それではごめんください」、ガチャンと電話はすぐに切られた。実際には「ではまた次の機会にお願いします」とか何かやりとりして電話を終えたのだろうが、印象としては、「不可能です」というきっぱりした物言いに圧倒されて、次の言葉が出て来ないうちに一方的に電話を切られたような気がする。愛想のない、機能一辺倒の人、という第一印象だった。その時は、まさか数年後に、上田卓三事務所で吉田さんの部下として働くことになるとは夢にも思わなかった。まして、35 年間もの長い付き合いになるとは思わなかった。

仕事においても、日常生活においても、吉田さんは、豊富な語彙の中からの的確な言葉を拾い出して、きわめて明瞭かつ鋭く言葉を発する人だった。話をするだけで、曖昧で不透明だった頭の中が秩序づけられ、一定の方向に整理される思いがした。国際政治や国内政治の諸問題を、さまざまな角度から切り取り、「人民の利益」にとって何が大事かという一貫した視点で、方向付けをしていく。声がかく、エネルギーにあふれた吉田さんと話をすると、こちらもつい引きこまれ、元気になって、やる気が出てくる。吉田さんは天性のアジテーターだった。とはいえ、吉田さんの論理にうっかりそのまま乗ってしまうと、自分をとんでもないところに追い込みかねない危険性があり、相槌を打ちながらも、「さて、どうやって切りぬけようか」と考えることしばしばだった。

「伏田君、上田さんの政策活動を手伝ってくれよ!」、

「何か自分のテーマを決めて勉強しなきゃダメだよ!」、「ロシア語を勉強しろよ!」、「日ソ関係で論文を書けよ!」……。吉田さんのような能力のある人間になりたいと憧れつつも、もう一方で「いや、とても吉田さんのようににはできない」と自覚している私は、生来の怠け癖も手伝って、折りあらば逃げ出そうとする。しかし、そんな私を、時に襟首をつかんで引きもどし、時に尻を蹴飛ばしながら、吉田さんはグイグイと引っ張って行った。

大学を卒業してわずか 2~3 年の若造に、海外旅行が初めてにも関わらず 300 人の大旅行団の添乗員をさせたり、ロシア語どころか英語もまともに出来ないのに「青年の船」の事前打ち合わせにソ連(ナホトカ)に出張させたり、一流学者を集めた国際シンポジウムで司会をさせたりと、上田さんと吉田さんの人使いは滅法、荒っぽかった。

吉田さんには、仕事の仕方を教えてもらった。

上田卓三衆議院議員(故人／大阪四区選出／社会党／1976 年 12 月から 1993 年 7 月まで衆議院議員)の秘書として吉田さんの下で働いた日々、随分いろいろなことを教えていただいた。1979 年頃から国会が開かれる度に大阪から東京に駆り出され、国会質問の下準備や政策関係の仕事を手伝った。

当時、上田さんは内閣委員会に所属していた。内閣委員会は、外交委員会や文教委員会といった大きな政策テーマを扱う委員会ではなかったが、これらの主要委員会では扱われない「その他すべて」の課題が審議される委員会だった。上田さんが部落解放同盟大阪府連委員長として全力で取り組んでいた同和対策もその一つだったが、防衛庁関係や人事院関係の法案、皇室関係、その他さまざまな課題を扱っていた。当時の政治状況は、国会で圧倒的過半数を握る自民党に対して、社会党をはじめ野党は、「徹底審議」という名分で最大限に質問時間を引き延ばし、自民党が提出する法案の成立を阻止する抵抗戦術を議会内で繰り広げていた。委員会で審議される法案が決まり、質問時間が割り当てられると、その法案に関連しように関連していまいと、質問材料をかき集めて、時間一杯質問を繰り広げるのが野党議員の役割だった。国会質問は野党議員にとってはほぼ唯一の「出番」なので、みな張り切って質問作りに取り組んでいた。そんな中で、上田さんの国会質問原稿作りは吉田さんが一手に引き受けていた。

吉田さんの仕事ぶりは徹底していた。質問のテーマと内容を大まかに決めると、そのテーマにそった過去一年分くらいの新聞切り抜きを時系列に並べてさっと読み飛ばす。問題の概要とポイントを掴みとると、次は大きな書店で専門書を当たり、国会図書館に関連図書を請求し、あるいは過去の議事録を取り寄せ、徹底的に読み込む。(図書館

から借りた本でも平気でグイグイ太い線を引きながら読むので、あとで大クレームが来たが、とにかく本を読むのが速かった)。さらに、関係団体や利害関係者を直接取材して、問題の焦点を明確にする。そうして、いくつかのジャンル別のメモをまとめると、「さあ、書くぞ！」と大きな声で宣言し、ねじり鉢巻で一気に原稿を書き上げるのだ。こうなるともう誰の声も耳に入らない。その集中力とスピードはすさまじかった。国会事務所は、昼間は来客が多くて忙しいので、原稿書きはしばしば深夜に及んだ。「伏田君、論文でも何でも、こういう文書は結論から先に書くのが大事なんだよ」。後輩への実地教育も忘れない。

たいがい質問の前日までに原稿を作り上げ、関係省庁担当者に質問概要を通告し、同時に上田さんへのレクチャーと最終打合せをするのだが、時には原稿作りが当日までズレ込むこともあった。しかし、何があっても吉田さんは間に合わせた。きっちりと仕事をする吉田さんもすごかったが、吉田さんに任せっきりにして、当日朝に悠然と現れ、簡単な打合せの後、1 時間でも 2 時間でも国会質問に立つ上田さんもすごかった。原稿棒読みの場合もないわけではなかったが、しかし、それでもツボは外さない。ここはもう一押しというところでは、しつこく大臣や政府委員に食い下がった。

やがて、国会質問の原稿作りに飽きた吉田さんは、私や他のスタッフにその仕事を振り向けるようになった。大まかな方針を指示すると、有無を言わず「あとは頼むよ！」とくるので閉口したが、見よう見まねでやるしかない。新しい課題に取り組むとき、私は、いつしか吉田さんのやり方を見習いながら、資料を集めたり、論点整理をしたりする方法を身につけていったように思う。もちろん、吉田さんと同じようにはとてもできなかったが、吉田さんには技術的なことだけでなく、仕事に取り組む姿勢や熱意といったものをより多く教えられたと、今でも感謝している。

上田卓三さんは、ソ連やモンゴル、中東、アジア、アメリカなどを次々と訪れ、熱心な「議員外交」を展開した。中でもソ連とは、社会党代表団の一員としてしばしば訪問し、また日本にソ連代表団を受け入れるなど、幅広い交流のパイプを築いた。

厳しい米ソ冷戦の下で、日ソ関係が最も悪化し緊張していた時期に、上田さんはモスクワオリンピックにアエロフロート(ソ連航空)機を 2 機チャーターして 300 名の代表団を派遣した(1980 年)。翌年からはソ連極東の港町ナホトカに『青年の船』を毎年出し、大規模な青少年交流を組織した。ソ連から政治家や学者を招待して日ソ・シンポジウムやセミナーを度々開催した。このような日ソ友好交流を推進する組織として、1982 年 12 月に上田さんは、国際親善交流センター(JIC)を設立した。

吉田さんは、上田さんが外遊するときは必ず同行し、その英語力を駆使して上田さんの国際活動を強力に支えていた。日ソ交流においても、上述したような企画を次々と提案し、圧倒的な交渉力と実行力で、それらを実現に導いていった。国際親善交流センター(JIC)の専務理事として、吉田さんは、上田さんの国際交流活動のアドバイザー兼「司令塔」の役割を果たし続けた。

上田さんは、国会議員になる前から、1973 年に中企連(中小企業連合会。1996 年「ティグレ」に名称変更)を大阪で結成し、中小零細企業の税務・経営相談活動に取り組んでいた。この中企連を、大阪から全国に拡大する第一歩として、1980 年、東京に中企連の事務所を開設した。吉田さんは、中企連(東京)の責任者として、会員獲得と組織作りに奔走した。中小企業の経営者とのつきあいは、演説や議論だけではできない。夜の会合や食事につきあう時間も必要になる。時間が少しでもあれば本を読みたい吉田さんが、専門書をカラオケのマイクに持ち替えて、人づきあいするのはあまり嬉しくなかっただろうが、上田さんに惚れ込んだ弱み、不器用ながら一生懸命「おつきあい」に精出して、中企連の拡大に力を注いだ。

興味がなかったことや価値を認めないことには「何だい、それ！」と言ったきり見向きもしない吉田さんだったが、興味がなかったことでも必要とあれば、腹をくくって徹底的にやっつけるという一面もあった。しかし、カラオケは下手だった。大きな声で、拳を振り上げながら歌うから、演歌も歌謡曲も、すべてが労働歌か行進曲のようになってしまったのだ。

この中企連活動で、吉田さんは後の人生に大きな影響を与える出会いを経験する。在日台湾人実業家、アジア商事の洪毓盛社長(故人)との出会いだ。川崎で廃タイヤの回収事業を営んでいた洪社長が、タイヤ置き場の「公害問題」で川崎市や取引先親会社から苛められていたのを吉田さんが助けに入ったのが縁で、洪社長は東京中企連の第一号会員になった。しばらくは、ちょっと変った中企連会員にすぎなかった洪社長だが、若いころ(日本留学時代)に民主活動を行ったために国民党政権から睨まれて帰国できなくなり、事実上の亡命者として、日本で事業を起こし、陰で台湾民主化運動を支えている活動家であることがわかり、その後、吉田さんは台湾問題に関心を深めていく。洪毓盛社長との出会いが、後年、吉田さんが台湾問題の研究者として大学教授の職を得るきっかけとなった。

1977 年 1 月から 88 年 10 月まで、上田さんの秘書として 12 年間働いた吉田さんだったが、上田事務所時代の後半は、国会や中企連の日常雑務から少し距離を置いて、研究活動と著作活動に仕事の力点を移していった。

吉田さんは若い頃から、国際問題の研究者として将来身を立てようと、目的意識的に研鑽を積んできたようにみえる。上田さんの秘書になる前から、転々と職を変えながらも、米ソ関係や中国問題、日本の安全保障について的小論文を書き続けていた。仕事においても、個人的な研究活動においても、その時々、常にいくつかのテーマを掲げ、「今度は、いつまでにこれをやろう！」と目標を明確にして、自分やスタッフを追い込み、精力的に課題をこなしていくのが吉田さんのスタイルだった。

1982年ごろから、吉田さんは小論文では飽きたらず、上田さんが設立した出版社、にんげん社(現、にんげん出版の前身)を舞台に、書籍の編集や出版に意欲を燃やすようになる。82年に「アジアの平和を考える」(新時代社)という本を編集・出版したのを手始めに、「マスコミが報道しないレフチェンコ事件の真相」(83年にんげん社)、「大統領の犯罪」(84年にんげん社)、「貧富の差」(85年にんげん社)と、吉田さんはたてつづけに本を執筆し出版した。

ソ連でゴルバチョフ政権が誕生しペレストロイカが始まると、2冊のゴルバチョフ論文集(「未来への構想」1986年、「革命」1987年)をはじめ、「改革の振り付け師」と呼ばれたアレクサンダー・ヤコブレフの著作の翻訳出版(「星条旗と暴力」1987年)など、著述活動のペースはさらにあがった。

秘書が日常業務以外のどんな仕事をしていても、自由にやりたいようにやらせてくれた上田さんにもたいしたものだったが、秘書業のかたわら旺盛な研究・執筆活動に取り組み、しっかり実績を積み上げていった吉田さんも立派なものだと心から敬服する。

学生運動時代から「暴れ馬」の印象が強く、大学卒業後も上司と衝突しては会社を辞め、職を転々としていた吉田さんが、上田卓三という底知れぬ度量の大きな政治家とめぐりあい、その才能を全面的に開花させる場所を得たのだと思う。その意味で、上田さんとの出会いは、吉田さんの人生にとって決定的だったと私は思う。大学で学生運動に邁進し、共産主義者、マルクス・レーニン主義者として強固に理論武装し、その鋭い論理力を手がかりとして世の中を突破してきた吉田さんにとって、部落解放運動や中小企業運動、複雑な社会運動で鍛えられ、政敵を含めすべての人を巻き込み、魅了してやまない上田さんという政治家は、おそらく初めて出会うタイプの人間だったのではなかろうか。知識の量や論理力だけでは量れない大きな力と人間的魅力を上田さんから感じ取り、吉田さんは上田さんに惚れ込んでいったのだと思う。上田さんと一緒に仕事をする中で、吉田さんもまたその世界観・人間観を少しずつ変えていったように思われる。

しかし、吉田さんは上田さんから突然離れることになっ



ありし日の吉田さん(左端)

た。1988年秋のことだ。リクルート事件は、社会党内で一種独特の重きをなす政治家として存在感を増していた上田さんにとっても、その右腕として縦横に活躍していた吉田さんにとっても、深刻な打撃となった。この事件で、上田さんは衆議院議員を辞職し、吉田さんもまた上田事務所から去っていった。1980年代後半に日本社会全体をおおったバブル経済の熱波に、当時私たちもまた知らず知らずのうちに染まっており、そのことが判断力を曇らせたのだと思う。同時に、当時の左翼勢力の中にあつた「目的が正しければ間違った手段でも時には許される」という革命的合理主義とでも言うべき誤った考え方が作用していたことも否めない。

しかし、吉田さんは、失敗しても挫折しても、再び立ち上がり、自分の道を切り開いていく不屈の人だった。

上田事務所を辞めた吉田さんは、民間の研究団体である国際問題研究協会を拠り所に、「民主主義」「人間」「改革」「開発」などをキーワードに国際政治の新しいあり方を探求する政治学者の幅広い研究活動を組織しつつ、自ら台湾問題の専門家として復活した。その研究スタイルは、単に文献資料を渉猟するのではなく、台湾政治の現実を担っている民主進歩党および国民党の活動家たちの懷に飛び込み、そこに暮らす人々の喜びや悲しみをも深い共感とともに包み込む、まさに「人民的」でユニークなものだった。台湾の民主化過程に密着した数々の研究成果によって、吉田さんは兵庫県立大学の教授へと転進した。

さまざまな補助金や委託研究などで研究協会の活動資金を捻出しつつ、毎月のように活発な研究会を組織し、同時に自らの研究成果を論文や著作の形で発表し、さらに家族4人の生活を支える。この時期の吉田さんの苦闘と頑張りは、どうい常人のなせるわざではなかった。そのことを思うとき、吉田さんが上田事務所を辞めたいきさつはどう

あれ、私は吉田さんを深く尊敬せざるを得なかった。吉田さんの努力と不屈の闘志にはいつも頭が下がる思いがした。上田さんもまたそんな吉田さんを陰ながら支え、応援しつづけた。

この時期の苦闘が、吉田さんの肉体を蝕んだのかもしれない。大学に籍を得て、台湾から、韓国、モンゴル、中国と、「東アジアの民主主義と政治改革」をテーマに、さらに研究活動を深化させようとした矢先に吉田さんは癌に侵された。だが、吉田さんは挫けなかった。癌とも最後まで立派に闘った。食生活を玄米菜食に完全に切り替え、厳しい食事療法、自然療法を実践した。毎日散歩をし、太極拳をやり、油絵を描くなど、それまでの生活習慣を一変させた。しかも、太極拳の教本を出版し(「太極拳をはじめませんか」王茂斌氏との共著、2007年春秋社)、癌闘病の基本的考え方を本にまとめた(「癒す力〜ガンの患者学入門」2008年にんげん出版)。きわめて強い意志力と自己管理能力をもった吉田さんでなければできないことだった。困難な病との闘いが、吉田さんの思考に内省と深みを与えた。吉田さんの元気一杯の闘病生活は、同じ悩みをもつ周囲の人たちに限らない希望と勇気を与えるものだった。顔を合わせるたびに、逆に励ましてくれる吉田さんに、私は本当に敬服したものだ。

最後まで全力疾走で生きた吉田さん。どんな困難にもひるまず、強い意志力で立ち向かった吉田さん。その苛烈な生き方ゆえに、失くした友人、先輩は多かったが、同時に手に入れた友人、同僚、後輩もまた多かった。その意味で人生の帳尻はちゃんと合っている。生き急いだ一生だったが、最後まで私たちの心に強い光を発し続けて、吉田さんは逝ってしまった。残された者として、困難に直面するたびに、「吉田さんなら、こんなときどうするだろうか」と自問自答しつつ、

日々を送っている。吉田さんと同じようにやることはとうてい無理だが、やり方は違っても、あの元気と不屈の闘志は少しでも分けてもらいたいと思う。吉田さんは私の心のなかにしっかりと生きている。(2011年5月8日記 ジェーアイシー旅行センター株式会社代表取締役 国際親善交流センター副会長)

吉田勝次さん略歴:

1943年1月 横浜市に生まれる。
1969年3月 大阪大学文学部卒業
1977年1月 衆議院議員上田卓三・秘書
1982年12月 国際親善交流センター・専務理事(兼務)
1989年4月 日本国際問題研究協会・事務局長
1992年6月 ロシア科学アカデミー東洋学研究所で博士号取得
1994年10月 大阪経済法科大学・客員研究員
1998年4月 姫路工業大学(現、兵庫県立大学)環境人間学部・教授
2008年3月 県立大学を定年退官
2010年2月 永眠

<主な著作>

貧富の差 1985年 にんげん社
金満ニッポンの階層化社会 1990年 社会評論社
ツァン、ツァン！台湾民主進歩党 1990年 社会評論社
海図なき航海 1991年 田畑書店
台湾市民社会の挑戦 1997年 大阪経法大学出版会
アジアの開発独裁と民主主義 2000年 日本評論社
アジアの民主主義と人間開発 2003年 日本評論社
自由の苦い味 2005年 日本評論社
太極拳を始めませんか 2007年、春秋社(共著)
癒(なお)す力〜がんの患者学入門 2008年 にんげん出版

新生ロシア連邦20周年・ロシア文化フェスティバル5周年

記念出版「ロシアの文化・芸術」

ソ連崩壊 20年後のロシアにおける新しい傾向と
ロシア芸術の魅力の基本的特徴



ロシア文化フェスティバル
日本組織委員会事務局長
長塚英雄責任編集
発行/株式会社 生活ジャーナル
企画/株式会社 ロシアン・アーツ
2011年4月10日発売
定価:2,800円+税

「森のなかまたち」

極東ロシア・アムールの動物たち

世界的動物作家による森の物語集 第2弾!!

ヒグマ、オオカミ、トナカイ、シマリス、タヌキ…ロシアを代表する狩人がそと話してくれた、森の動物たち、それぞれが主人公の16話。



フセーヴォロド・P・シソーエフ 著
岡田和也 訳
森田あずみ 絵
四六判上製 224頁
ISBN978-4-89642-333-4 C0097
発行/ 株式会社 未知谷
定価:2,200円+税

JICモスクワ通信 vol.23

今回は、短くて面白い旅について話をしたいと思います。

去年 9 月JICでモスクワの留学生の食事会を主催しました。その時、留学生から「JICでどこかに小旅行に行きたい」という声が聞こえました。こちらでしばらく検討して、せっかく冬ですので、北の方の旅を考えました。

ロシアの北に、北極圏内に入る、ムールマンスクという町があります。バレンツ海の港で、結構大きい町です。ムールマンスクの比較的に近くに、ノルウェーという国があります。ロシア人の中でもあまり知らない人がいますが、ロシアとノルウェーは 200kmぐらいの共同の国境があります。

北ロシアと東ノルウェーを見るような旅を考えました。6 人集まりました。1 月 21 日（金）に飛行機でムールマンスクへ行き、1 泊しました。22 日の朝早くミニバンに乗って、ノルウェーの方へ出発しました。ムールマンスクを出たら、周りに何もないのか、見えないのか、よくわからない景色がありました。雪で真っ白でした。ミニバンの運転手によると、吹雪がひどい時、道が通れなくなることもあるようです。国境に近づいていくと、軍事施設がたくさん見えてきました。ソ連時代にNATO諸国の中で、ノルウェーだけと共同の国境があったからです。

国境の近くに、ニケルとザポリャールヌイという 2 つの町がありました。ニケルにニケル工場があり、空気が汚かったです。30 分行ったら、国境でした。ロシアの方は、ポリソグレブスクといいます。それを出たら、「Kingdom Of Norway」という看板があり、ノルウェーに入りました。別世界に入ったような感じでした。ニケルはソ連時代の 5 階建てのアパートビルで、ノルウェーの方のキルケネスという町は、快適な色の小さな家でした。

ノルウェー国境警備は聞きました。「何のためにキルケネスにいきますか。買い物ですか」。ムールマンスクのロシア人はよくキルケネスに買い物に行くからです。「違います。

観光です。」
「観光ですか？でも、キルケネスは小さな村なんですけど・・・」という返事でした。ロシア人はよくキルケ



涼しい話題で
暑さを一気に
吹き飛ばそう!!!



ネスに行きますが、逆にノルウェー人もロシアのムールマンスクに行きます。目的は、お酒を飲む、といううわさも聞きました。ノルウェーのアルコールコントロールは厳しいから・・・

キルケネスはヴァランゲル・フィヨルドに位置しますが、そのフィヨルドの近くにトン・ホテルがありました。ホテルに泊まりましたが、昼食を食べてみると、夕食を食べているような感じになりました。なぜかという、外は真っ暗になりました。夜中じゃないかな、という気持ちでした。1 月の北の昼間は、とても短いですね。



ちなみに、ノルウェー料理は美味しかったです。鹿の肉をはじめて食べてみました。あと、キルケネスの近くに雪のホテルも見ました。

新婚旅行でとまる人が多いようですが、実際のお客さんを見ませんでした。寒すぎるのではないかと、思いましたが、ホテルの中は-3 度のとき、外は-30 度もあります。もとの寒さと比べると、暖かく感じますね。

そして、キルケネスにソ連兵隊の像があります。第2次世界大戦の終わりに、ソ連時代の兵隊は東ノルウェー人を救いました。夕方、キルケネスを散歩しました。

1 泊してムールマンスクの方に戻りました。まず、港を見て、「レーニン号」という、ソ連初の原子力砕氷船をみました。博物館になっています。そして、ムールマンスクの近くの高い丘に、「アリョーシャ」という大きい像をみました。ムールマンスクを守っている兵隊です。その 23 日のうちに飛行機でモスクワに戻ってきました。今年も何か面白い旅を考えたいと思います。

（モスクワ トカチェンコ・ドミトリー）

ロシア (旧ソ連) よりペンパル募集!

お友達をつくりましょう

①Name ②Sex ③Born(Age) ④Address ⑤E-mail
⑥Occupation, Hobby ⑦Language

① Sakura(nickname) ② Female ③ 1992 ④ Ukraine, Pavlograd ⑤ SAKURA@netplus.dp.ua ⑥ Rock, metal, picture, singing, dance, anime, manga, Japanese language, culture of Japan ⑦ Russian

① Ivanov Artur ② Male ③ 1992 ④ Russia, Yakutsk ⑤ kitsunex13@mail.ru ⑥ Computer game, travel ⑦ Russian, English

① Rebekina Natalia ② Female ③ 1979 ④ Russia, Surgut ⑤ natasha-rebeka@mail.ru ⑥ Literature, history, electronics ⑦ Russian, English

① Zauzolkava Ekaterina ② Female ③ 1995 ④ Russia, Artem ⑤ zauzolckowa@yandex.ru ⑥ History, literature, music, foreign language, travel ⑦ English, Russian

① Shakhova Tatiana ② Female ③ 1979 ④ Russia, Novosibirsk ⑤ t.v.enina@gmail.com ⑥ Anime, manga, Japanese language and culture ⑦ Russian, Japanese

① Davydova Ekaterina ② Female ③ 1989 ④ Russia, Fryazino ⑤ giza-2000@mail.ru ⑥ Computer, IT, sewing, travel, studying language ⑦ Russian, English

① Vazhaeva Olga ② Female ③ 1990 ④ Russia, Mglin ⑤ Olya.vazhaeva@yandex.ru ⑥ Information technology, culture of Japan, anime, manga ⑦ Russian

① Danilevich Alexey ② Male ③ 1986 ④ Russia, Moscow ⑤ alexeygarm@gmail.com ⑥ Sports, travel, theatre, rock music, culture of East ⑦ Russian, Japanese

① Knestyapin Maxim ② Male ③ 1986 ④ Russia, Moscow ⑤ micstur86@mail.ru ⑥ Drawing, Reading, Music ⑦ Russian

① Tarasenko Alina ② Female ③ 1992 ④ Russia, Moscow ⑤ tarasnata@rambler.ru ⑥ Music, drawing, anime ⑦ English, Russian

① Veselov Andrey ② Male ③ 1989 ④ Ukraine, Crimea ⑤ kisargenus@gmail.com ⑥ Martial arts, Kendo, Sports, Traveling, Films, Music, Football, Historical, Tattoo,

Psychology, Computers ⑦ English, Russian

① Artykov Alexandr ② Male ③ 1987 ④ Russia, Desnogorsk ⑤ al_ar2kov@mail.ru ⑥ Computer technology, Electronics, Cooking, Gothic, cyber-punk, reading ⑦ Russian, English

① Kuznetsova Ekaterina ② Female ③ 1977 ④ Russia, Nizhny Novgorod ⑤ post_nn@mail.ru ⑥ Collecting stamps ⑦ English, Russian

① Petrov Konstantin ② Male ③ 1983 ④ Russia, Komsomolsk-na-Amure ⑤ mrmrkot@rambler.ru ⑥ Fishing, internet, computer, fantasy, ethnography ⑦ Russian, English

① Kachikovskiy Sergey ② Male ③ 1990 ④ Russia, Moscow ⑤ 1sergey9012@mail.ru ⑥ Culture of Japan, Russian-Japanese relation, world economy, history, western & eastern philosophy, Japanese language, Japanese art, Karate ⑦ Japanese, English, Russian

① Zinchenko Dasha ② Female ③ 1990 ④ Russia, Tutaev ⑤ zoorain0@gmail.com ⑥ Photography, journalism, poetry, Aikido, music ⑦ English, Japanese

① Zhdankina Victoria ② Female ③ 1993 ④ Russia, Magadan ⑤ uolter_vlada@bk.ru ⑥ Music, drawing, studying languages, ancient languages, movie, computer game, anime, manga, drama ⑦ English, Russian

① Popova Evgeniya ② Female ③ 1986 ④ Russia, Monchegorsk ⑤ TrashtaBars@yandex.ru ⑥ Reading, Sports, music, hiking ⑦ Russian, English

① Vartikyan Marianna ② Female ③ 1991 ④ Ukraine, Kharkov ⑤ yuna-rikku@rambler.ru ⑥ Playing the piano, dance, anime, manga ⑦ English, Russian

① Zlydneva Elena ② Female ③ 1992 ④ Russia, Kurgan ⑤ zlyidnev@mail.ru ⑥ Tea culture, Go, rock, anime, Origami, intellectual game, fantasy ⑦ Russian, English, French, Japanese

① Vlasova Ekaterina ② Female ③ 1993 ④ Russia, Nizhnekamsk ⑤ happy300193@yandex.ru ⑥ Ethnography of Japan, tennis, Japanese language, j-pop, j-rock, drama, photography ⑦ English, Russian

① Kobazeva Mikaela ② Female ③ 1997 ④ Russia, Novocherkassk ⑤ ayachannofan@yahoo.com ⑥ Music, mode, anime, manga ⑦ Russian, English

① Sapareva Dzhemma ② Female ③ 1992 ④ Belarus, Vitebsk ⑤ djemma92@mail.ru ⑥ ? ⑦ Russian, French





1~10月の予定

7月29日(金) 9月3日出発 短期ロシア語グループ研修

8月上旬 9月出発ロシア語長期留学生 事前説明会

9月上旬 9月出発ロシア語長期留学生 出発!

10月上旬 JIC 東京 ロシア語講座 後期スタート!

10月中旬 JIC 大阪 ロシア語講座 後期スタート!

最新情報は JIC のホームページに
随時掲載いたします。ぜひご確認下さい!!

◆◆編集後記◆◆

いよいよ暑い夏がやってきました。この時期にはエアコンや扇風機がかかせませんが、3月の東日本大震災を受け、今年の夏はひとりひとりが節電に協力する必要があります。5月には環境省が「スーパークールビズ」というポロシャツやアロハシャツなども許容するという新しいスタイルのクールビズを発表しました。通勤時の服装を変えるだけで、簡単に節電に協力できるんですね。自宅でも何か出来ることは無いかと考えたところ、つる植物をカーテンのように這わせ、建物の温度上昇を抑制する「みどりのカーテン」を作る事にしました。ゴーヤやキュウリなどを栽培・収穫すると楽しさと同時にエコにも貢献できる、一石二鳥の節電術です!! 今年の夏は皆さんも自分なりの節電に挑戦してみてください。(JIC 東京 白井 真理奈)

* * JICのロシア語留学・研修 * *

ロシア語長期留学4月生・募集中

【期間】2012年4月より10ヶ月

【締切】2012年1月20日

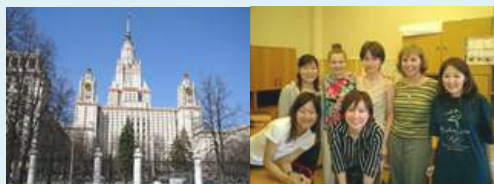
モスクワ国立大学 579,000円 (授業料10ヶ月)

サクト・ペテルブルグ国立大学 585,000円

(授業料10ヶ月)

ウラジスラフ極東大学 314,000円 (授業料10ヶ月)

*上記の金額以外に別途、寮費、手配料、渡航費用、ビザ代金及び取得手数料などががかかります。



ロシア語個人研修(随時募集)

☆モスクワ・ダリパス社 1週間~4週間 (ホームステイ3食付)

☆モスクワ大学 2週間~長期 (ホームステイ朝食付/大学寮1人部屋)

☆ペテルブルグ大学 1ヶ月~長期 (大学寮2人部屋)

☆ウラジオストク極東大学 1週間~長期 (大学寮1人部屋/2人部屋)

☆ウラジオストク極東大学 1週間~1ヶ月 (ホームステイ2食付)

☆ビジット生活体験コース (ホームステイ3食付)

☆ハバロフスク外国語教育センターGEO (ホームステイ2食付)

ロシア語グループ&個人研修(随時募集)

リデン&デンツ スイスの会社出資のロシア語学校

個人・グループレッスン。モスクワとペテルブルグにあり、インターナショナルな雰囲気。初心者より上級者まで。2週間より可能。基本はホームステイ2食付。詳細はパンフレットをご覧ください。



デルジャーヴィン・インスティテュート

全ロシアブーシキン博物館の協力によりペテルブルグに設立された学校で、18世紀の建物内で授業が行われます。アットホームな雰囲気でお勧めです。グループレッスン、1週間より可能。基本はホームステイ2食付。詳細はパンフレットをご覧ください。



◆ロシア留学旅行相談 (東京・大阪オフィス◆)
ロシア留学・旅行のお問合せ・ご相談に致します。
お気軽にお越しください。

東京事務所 平日10-18時 03-3355-7294/7295

大阪事務所 平日10-18時 06-6944-2315

※事前にご予約ください

留学・研修各種パンフレットはJICへ
ご請求ください。留学・旅行相談お気軽に!

~Jクラブ(JIC友の会)のご案内~

JICインフォメーションを年4回、またJICのイベント案内をもれなくお届けします。
ご希望の方には入会案内をお送りいたしますので、ご連絡ください。会費は無料です。
国際親善交流センター